



モエレ沼公園



釧路湿原

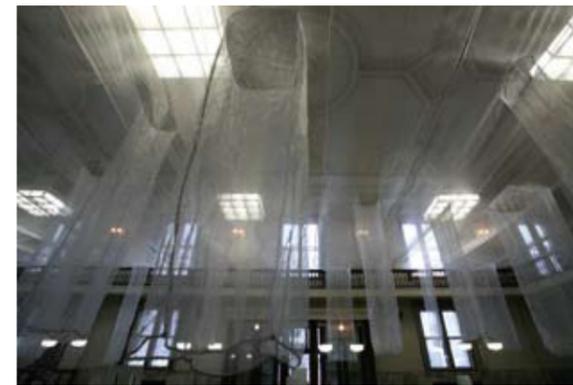


小樽 坂牛邸 (1927)

明治2年(1869年)開拓庁が設置されて以来、明治・大正・昭和・平成の現在に至るまで北海道は大きなパラダイムシフトを時代の流れの中で重ねてきました。第一期は第一産業の拠点としての農地開拓・漁業・石炭供給基地としての地域環境設備が実施されてきました。北海道の各地域も流通経済圏が確立する中で函館・小樽と官民の力で都市・街並・住宅が完備されてきました。小樽では明治期に、工部大学校第一期生4人のうち、辰野金吾、曾禰達蔵、佐立七次郎の3人の建築家が建築をつくりました。札幌はその行政指導の中心として官主導の開発が行われ開拓史の流れとしてアメリカからの建築文化の影響もあり、また、第二期は昭和25年(1950年)に北海道開発庁(2001年より北海道開発局)が設置され日本再生のため総合的開発を国主導で行う方針で今日まで計画が進められてきました。建築家も国のビジョンに追従する形で地域をつくる試みを行ってきましたが、2001年より北海道開発庁が北海道開発局に改められ、北海道が140年かけて国主導で開発されてきた歴史がいよいよ名実ともに地域主導で地域を担っていく事が求められています。2011年の東日本大震災では日本はおろか世界に衝撃をもたらし、東北地方の復興のあり方や地域のコミュニティの大切さとその核としての街と建築の重要性を改めて再確認させられる事となりました。核依存のエネルギーも再生エネルギーへと大きくシフトの検討が世界規模で行われ始めています。2011年現在から2050年の未来を見据える時、北海道に生きる建築家として担う役割は、上記の歴史の上に立って、また、これから変わるであろう主エネルギーの変化、そして北海道が持つ恵まれた自然や文化、有形無形の資源を改めて認識した上で、社会の中で真に求められる姿をしっかりと確立する事が求められています。2050年を見据える中で建築家は社会の中で真に求められる姿を自ら認識し、力を合わせて確立することが求められています。



旧三井銀行小樽支店 (1927)



建築再生 2010小樽アートプロジェクト



下川町 エコハウス (2010)



美幌町 エコハウス (2010)

2050年への建築家の新たな視点

・エネルギー対応都市・建築の確立

現在北海道の住宅で進められている北方型住宅の技術を標準化し住宅以外の建築においても省エネルギー規準、中・大規模の世界規準を確立する。主なエネルギーは再生エネルギーとし、地域のインフラ環境、スマートグリッドの技術とライフスタイルの変化に柔軟に対応できるより高い創造性が建築家に求められます。2010年にはQ値1.0以下の住宅の設計が北海道の建築家によって実現しております。

・地域性の再生

グローバル化の中で地域格差が縮小された一方、地域の個性やコミュニティが現在急速に失われています。商店街や新たな街づくりを建築とともに考えられる建築家の役割は大変重要です。現状を正確に情報分析し、魅力のある創造力と人々の心をつなぐ役割が求められています。

・人口減少に伴う地域再構築

北海道人口2010年550万人が2050年319万人と実に40年で42% (231万人) の人口が北海道で減少する事が予測されています。街も再編される中で、歴史や地域文化を十分継承した豊かな街を考え計画する必要があります。建築家の役割は失われる歴史に対する提案を含め多岐に渡る文化的な深い視点が求められています。

・歴史を継承する街づくり

140年の歴史の中で、都市や街が幾度も再編され、歴史を伝える各地の歴史的建造物の多くは失われました。現在まで遺る建築も耐震性・老朽化・断熱性などの問題がありますが、量から質の時代の現代において歴史を現代に継承するのは最も大切な事の一つであり、再生・活用し豊かな地域コミュニティの創造を提案する「建築文化を建築家がリードする」ことが求められています。

・美しいランドスケープをつくる

北海道は日本やアジアから農業・漁業の重要な生産拠点としてこれから益々注目されます。風景の基本となる郊外の建築を建築家が美しいデザインをし、また、魅力的な場所の創造をすることで魅力的な地域文化が生まれ、また、観光地として美しい風景は人々の交流を活性化させる事となります。

・世界有数の観光地として

アジア圏の経済力が高まる中で最北の先進地域として近年、北海道は注目を集めております。豊かな四季・風景・食材を持つ特性はアジア経済圏の中で特異な個性を持っております。グローバル化する中で観光地としての環境設備と独自の建築文化をしっかりと形成する事が建築家に求められています。予想される時代の変化の中で建築家は従来以上の主体性と確かな、そしてグローバルな視点により地域密着する積極的な活動が求められると思います。産・学・官・民が協力して必要とされる姿や方向を速やかに作り上げる事が必要です。

これから予想される変化に対応する形で建築家の役割を想像してみました。科学と情報の益々の発展、従来の役割の枠を越えたより多くのプロフェッショナルが社会や街、建築に対して力を合わせ、チームワークでつくるという時代が来る事が予想されます。

ただ、いつの時代にも変わらない、また、守らなければならない自然や人間やあらゆる生命の尊厳や環境に対し、人間としての高い見識と創造力を持った建築家の存在は貴重であり2050年の未来にも豊かな時代を築いていく重要な役割が益々期待されると思います。北海道の建築家を取り巻く第三期のパラダイムシフトをしっかりと捉え、豊かな自然と融合した高質で深みのある魅力的な建築文化と豊かなコミュニティ社会の2050年の実現を目指します。